



- ごあいさつ ー 標本を残すということー . . . . . 2
- 石灰岩地総合調査が始まりました . . . . . 3
- 平成28年度特別展  
「現代有用植物展～暮らしと植物のステキな関係～」見どころ紹介 4～5
- 「ジオパーク秩父のアナ」を終えて . . . . . 6
- 学芸員紹介・祝 入館者300万人達成 . . . . . 7
- 表紙の解説・催し物のお知らせ（10月～3月） . . . . . 8

と ろ  
清淨

27

2016. 9

埼玉県立自然の博物館

SAITAMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY

## ごあいさつ

### ー標本を残すということー

中村 修美



館長に就任してから、早いもので6か月がたとうとしています。この間には、8月12日に累計の来館者が300万人を超えるという嬉しい出来事がありました。当館は

昭和56年11月10日に開館（一般公開は11日）し、平成2年4月に100万人、平成12年8月に200万人を迎え、この度300万人の来館者を迎えることができました。多くの方にご来館いただいたことに感謝し、お礼申し上げます。

また、本年3月1日には、秩父地域の6つの露頭と当館所有の9件の海棲哺乳類化石が国の天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」に指定されました。指定された化石標本は、パレオパラドキシア6件、チチブクジラ2件、オガノヒゲクジラ1件ですが、このうちパレオパラドキシアは当館の主要展示として、小鹿野町般若産の実物化石を用いた骨格復元と3体の骨格復元模型、2つの産状模型が常設展示されています。昨年度の企画展「パレオパラドキシア」では、今回指定された化石標本をすべて公開しました。しかしながら、これは限られた期間での公開です。現在は、一部の化石標本を臨時的に展示しています。今年度中には、新たに実物化石や古秩父湾に関する常設展示の準備を進めています。

当地には、大正10年に上武鉄道（現在の秩父鉄道）が開設した秩父鑛物植物標本陳列所が、昭和24年には戦争により荒廃した陳列所を立て直して開館した秩父自然科学博物館がありました。この地では当館も含めて約100年に及ぶ博物館活動が行われてきました。今回指定された化石標本の多くは、当館が開館する前に発見・発掘されたものです。通常ならば大学や国公立の博物館、あるいは採集者個人や収集家が保管し、各地に散逸してしまっても不思議ではありません。それらが秩父の地に保存されたのは、大正時代から続く長い博物館活動があったからだと思います。

一般に博物館というと、展示を見るところの印象が強いと思います。ですが、博物館の活動として、資料を「収集・保管」し、「調査・研究」して、「公開・教育普及」していくことがあります。この「公開・教育普及」事業の一つが、展示です。確かに展示は博物館にとっての主要な事業ですが、「公開・教育普及」では、それ以外にも講座や野外での体験事業、インターネットや印刷物による情報提供など、多様な活動があります。

これら活動のためには、資料に関する調査研究は必須です。逆に言えば、これなしにはオリジナルな情報を提示することはできません。本や文献で調べるだけでなく、改めて標本を調べたり、現地で調査研究したりする必要があります。必要ならば試料を採集し、標本にするための作業を行います。これらの標本は、野外あるいは標本を用いた調査研究から得られた情報とともに、展示や普及事業などに活用され、またさまざまな媒体で公開されることとなります。このときに作成した標本は、通常は登録標本として保管されることとなります。

標本は展示や普及事業などで使用されますが、研究の対象であるとともに、研究結果を支える証拠でもあります。また、研究の進展により研究成果の検証が必要になることがあり、標本を後世でも確認できるように保管、管理しておく必要があります。場合によっては、すぐに資料として登録できないこともあります。のちに重要な発見につながることもあります。「標本を残す」というのは、博物館の重要な使命の一つです。

埼玉には西の山地から東の低湿地まで多様な自然があり、まだ十分に解明されていません。変化の激しい今だからこそ、これらを記録し、その重要性を明らかにする必要がありますし、その資料を後世に残す必要があります。

今後も、多様な標本を収集保管するとともに、オリジナルな情報を発信する魅力ある博物館を目指して進んでいきたいと思っております。皆様のご指導、ご援助をお願いします。

（なかむら おさみ・館長）

## 石灰岩地総合調査が始まりました！

須田 大樹

埼玉県教育委員会では、今年度から、従来知られていない文化遺産を新たに掘り起し、その保存と活用を図ることを目的に、歴史遺産・自然遺産・無形民俗文化財の学術調査を行う「文化遺産活用調査事業」をスタートしました。

当館はそのうち自然遺産の調査を担当し、第一弾として平成 28 年度～平成 30 年度の 3 か年で、「石灰岩地総合調査」を実施します。

### 石灰岩地とは

埼玉県には、浅い海で堆積したサンゴやフズリナなど生物由来の石灰質からなる石灰岩体が点々と分布しています。

これらはセメント産業を中心とした基盤産業を支えているだけでなく、地下水によって溶食され鍾乳洞が形成されたり、特殊な環境に特徴的な植物相がみられたり、多様な陸産貝類が生息したりするなど、学術的にも重要な場所です。

中には、貴重な自然遺産として国や県の天然記念物に指定されている場所もあります。

### 地質分野

地質分野では、NPO 法人日本洞穴探検協会の御協力をいただき、石灰岩地に成立する鍾乳洞の現状を把握することを主目的としています。

今年度は、石舟沢鍾乳洞（秩父市中津川）と高岩洞（秩父市大滝）の入洞調査を 7 月に実施しました。



調査風景

### 生物分野

生物分野では、現地調査・文献調査等により、県内の石灰岩地の特徴的な生物相を明らかにすることを目的としています。

今年度は、二子山（小鹿野町）をはじめ各地の代表的な石灰岩地で季節ごとに現地調査を実施し、植物相の記録を進めています。



調査風景（二子山）



ブコウマメザクラ  
(県絶滅危惧ⅠA類、国ⅠB類)



フジカワゴケ（地衣類）  
(県Ⅰ類、国Ⅰ類)

以上、調査の概要と今年度の進捗状況について簡単に御紹介しました。調査の成果は、報告書（平成 30 年度刊行予定）、自然の博物館研究報告、研究発表会、また特別展・企画展といった様々な形で、皆様にお伝えしてまいります。

こういった基礎的な調査が、平成 26 年に奥秩父の鍾乳洞から発見され話題になった大型クマの全身骨格化石や、表紙写真（解説 p. 8）のように、埼玉県の自然に関する新たな知見に繋がることもあります。ぜひ御期待ください。

（すだ だいき・学芸員）



平成28年度特別展

「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」見どころ紹介



木山 加奈子

有用植物ってなんだろう

有用植物とは、「役に立つ植物」のことです。私たち人間は、古くから植物を利用してきました。生活の変化で見えにくくなっているものもありますが、今でも身の回りには、たくさんの植物が様々な形で使われています。

埼玉にも、古くから連綿と続く風土に根ざした植物の利用や、植物と生きるための新しい取り組みが数多くあります。そんな埼玉ゆかりの「役に立つ植物」と、それに関わる人々の取り組みをご紹介しますと企画したのが、9月24日（土）から始まる特別展「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」です。今回の特別展は、普段の企画展で使用している2階の企画展示室を飛び出して、1階の常設展示室にまで進出します！

秩父のメープル、西川林業、細川紙をイメージした3体のキャラクターがご案内します。



いたやん

西川親方

細川さん

くらしの中の植物

1階の常設展示室では、県内の自然を紹介する生物展示ホールの大ジオラマを活かし、平野、台地・丘陵、山地それぞれに特徴的にみられる、風土に根ざした植物の利用をご紹介します。広大な水田が広がる平野部では、お正月料理で有名なクワイ、台地・丘陵では草原や雑木林などの土地利用の変遷と植物、山地では山菜やきのこなどを取り上げます。みなさんがお住まいの地域の植物の利用についても、新たな発見があるかもしれません！？また、スギ・ヒノキの木材から布をつくったり、木の器を藍染めしたりといった、ちょっと意外な利用も取り上げます。

人と植物のステキな関係（1）植物と生きる人々

2階企画展示室は、大きく2つのコーナーに分けられます。そのひとつが、「植物と生きる人々」。秩父の樹液生産、西川林業、小川和紙・細川紙の3本柱で、生活が近代化してもなお工夫を重ねて生き続ける、植物に関連する産業を取り上げます。

①秩父の樹液生産

秩父の樹液生産は、様々なメディアに取り上げられ、全国的に有名になりました。しかし、どうしてこうした取り組みが始まったのか、また実際どのように生産されているかをご存知の方はあまり多くないように思います。最近新たに取り組み始めたキハダの利用も含め、秩父の山と、山の暮らしの持続性を見据えた取り組みをご紹介します。



薬用植物としても知られるキハダ

②西川林業

西川林業は、入間川（名栗川）、高麗川、越辺川流域（現在の飯能市、日高市、毛呂山町、越生町にまたがる地域）で行われている、江戸時代から知られる埼玉が誇るブランド林業です。江戸に近いという地の利に加え、間伐（植えた木の間引き）などの手入れをしっかりと行い、優れた品質の材を産出することで知られています。

近年は、安価な外材の大量輸入により日本林業全体が苦しい状況におかれる中、木の良さを知ってもらうための取り組みや、間伐材を使って新たな製品を生み出すなどの工夫を重ねています。普

段なかなか比べる機会のない枝打ちをした木としていない木の違いや、西川林業独自の風習などをご紹介します。

### ③小川和紙・細川紙

埼玉県では、古くから各所で和紙の生産が行われてきました。その中でも現在まで生産が盛んであり、よく知られているのが小川町や東秩父村で生産される小川和紙です。中でも、伝統の製法と道具で作られ続ける和紙は細川紙と呼ばれ、1978年に国の重要無形文化財に指定され、2014年にはユネスコ無形文化遺産にもなりました。

世界に認められた細川紙がどのような植物からどのように作られるのかをご紹介します。また、地元のコウゾで和紙を作りたいという想いでコウゾづくりをしている方々の取り組みなど、伝統の和紙生産の「いま」をお伝えします。

### 人と植物のステキな関係（2）暮らしを彩る植物

高度経済成長期以降、身の回りには石油製品が増え、わざわざ自然の素材を手間をかけて使わずとも、暮らしに不自由しなくなりました。しかし、身の回りの植物は、暮らしにあたたかみや彩りを添えてくれます。本コーナーでは、そんな「暮らしを彩る植物」をご紹介します。

古くから秩父地方に伝わってきた背負い編み袋「スカリ」や、オカメザサのササかごといった工芸品や、アイ（藍）やムラサキ（紫）などの染料植物を扱います。



いろいろなスカリ作品

また、園芸植物も見どころのひとつです。現代でもガーデニングを楽しむ方は多いと思いますが、実は日本人は昔から園芸植物が大好きでした。特に江戸時代には、在来の植物を中心に多様な園芸品種が生み出され、庶民にまで浸透していました。展示では、この中でも埼玉にゆかりの深いフクジ

ユソウとサクラソウを取り上げます。

本展では、江戸時代に将軍に献上されたフクジュソウの園芸品種を描いた「珎花福壽草（ちんかふくじゅそう）」という和本を展示します。この中には秩父ゆかりの「秩父紅（ちちぶべに）」という園芸品種も描かれています。本資料は期間を定めて展示しますので、ホームページなどで展示期間をご確認の上、お出かけください。

企画展示室内には、県内で作られた木のおもちゃで遊べるコーナーも設置しますので、小さなお子様にも楽しんでいただけます。

生活の変化とともに形を変えながらも、私たちの身の回りにある植物。本展が、そんな植物たちに目を向けるきっかけになれば幸いです。



『珎花福壽草』より「ちちぶ紅」  
千葉県立中央博物館所蔵

(きやま かなこ・学芸員)

## 「ジオパーク秩父のアナ」を終えて

井上 素子・北川 博道

### 「穴」を通してジオパークをのぞく

平成23年9月に「ジオパーク秩父」が誕生してまもなく5年になります。当館では、ジオパーク秩父を周知すべく、平成23年度に企画展「ジオパーク秩父へのいざない」、平成25年度に企画展「彩発見！埼玉の太古の海の恵み展」を実施してきました。

今回は、ジオパーク秩父の「穴」にフォーカスしました。鍾乳洞や断層洞、ポットホールなど、自然の力でできた穴、トンネルや坑道、井戸など、人が何かを求めて掘った穴、生物が開けた穴・・・そんな多種多様な穴が、どうしてそこにあるのか、どうやってできたのかを紹介しました。

ジオパークの理念のひとつに、大地(ジオ)と、動植物や生態系(エコ)と、人(ヒト)の生活・文化・産業・歴史とのつながりを伝えることがあります。しかし、このようなエピソードは満ち溢れており、漫然としてしまいます。今回「穴」にぎゅっと焦点を絞ったことで、より鮮明にジオ・エコ・ヒトのつながりを描き出すことができました。また、穴+屈葬人骨、穴+オオカミ+人、穴+信仰など、今まで気が付かなかったエピソードも発見することができました。



### 夏休み、親子で楽しめる工夫を

洞穴に入った時の狭さや暗さ、妙な安心感などを伝えたいと、スタッフの遊び心をフル活動して、段ボール製のトンネルに、洞穴特有の生物や、洞穴内に眠る化石を再現しました。また、展示ケースをジオラマ風にして生物と穴との関係をわかりやすく紹介しました。「この穴だれの穴」などクイズ形式の展示も人気でした。

おかげさまで開催期間中28,911人の来館者を迎えることができました。少しでも、ジオパークの面白さを感じる機会となっていれば幸いです。

(いのうえ もとこ・主任学芸員

きたがわ ひろみち・学芸員)



①②展示風景

③トンネル内部のようす

コウモリやカマドウマの標本を展示した他、ヒカリゴケも生体展示した。

④生物の穴コーナー

⑤大地の穴コーナー

さまざまな穴と成因を写真で紹介。

⑥オオカミあーら(長瀬町)

明治30年代にオオカミが子育てをした穴。穴から連れ出した子を育てたところ、母親

は兎や鳥の死骸を置いていったという。

⑦妙音寺洞穴屈葬人骨(皆野町 所蔵：埼玉県教育委員会)

中世寺院発掘の際に突如現れた洞穴には、本州最古級の人骨が埋葬されていた。

## 学芸員紹介

小林 まさ代

今年度から自然の博物館本館勤務となった小林まさ代です。岩石・鉱物の担当です。

昨年度までは川の博物館で民具などの収蔵資料の管理や、特別展の開催（平成24年「今だって氷河時代」、平成26年「荒川流域の鉱山と産業」、平成28年「都幾川・槻川」）を担当しました。

大学時代は群馬県北部の蛇紋岩メランジュ中の岩石や鉱物を調べていたため、関東山地に分布する「蛇紋岩」に興味があります。蛇紋岩はマントルに由来する岩石と考えられています。地下十数キロにあった岩石が、どうやって現在の地表に持ち上げられてきたのか、そこにはどんなイベントがあったのか、興味は尽きません。蛇紋岩は石材としても美しく、蛇紋岩同士がこすれあってできた「鏡肌」や、磨いた面を見ると、その光沢のある深緑色にうっとりしてしまいます。また、長瀨町では蛇紋岩に伴って「滑石」が産出するのですが、昔から「ろう石細工」の名で土産物として売られていたこともあり、ほんの数か月で複数のリファレンスを受けました。長瀨町内での滑石の採掘は、すでに行われなくなっていますが、多くの方に知られる、地元根付いた石があるというのは素晴らしいことと感じています。また、知名度は低いのですが、やはり蛇紋岩に伴って産出する「ロジン岩」も皆さんに知ってほしい石です。白～薄緑色の美しい岩体が皆野町に見られるのですが、最近、その魅力に勝てない人々が多いのか、心無いえぐられ方をしているのが気になる石でもあります。

その他、埼玉県内には鉱物コレクターに有名な秩父鉱山をはじめ、90か所を超える鉱山などもあります。蛇紋岩への愛をあふれさせつつ、埼玉県の岩石・鉱物の魅力を、みなさんにお伝えできる仕事ができればと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

(こばやし まさよ・学芸員)



## 祝 入館者300万人達成

山田 和彦

昭和56年11月に埼玉県立自然史博物館として開館して以来の入館者数が、平成28年8月12日に300万人を達成しました。300万人目の入館者となったのは、倉井幹雄（くらいみきお）さんと茜花（あかね）さん、健助（けんすけ）さん、康生（こうせい）さんの御家族です。

記念セレモニーでは、中村修美館長より認定証と年間観覧券2名分、記念品としてアンモナイト化石を贈呈し、来館した多くの方々とともにお祝いいたしました。茜花さんは「300万人目の来館者となったことは全くの予想外のことでとてもうれしいのですが、お母さんが仕事で一緒に来ることができなかったのは残念。」とおっしゃっていました。一方で「300万人となってアンモナイト化石をもらったことをお母さんが知った時、なんて言うかな？」と楽しそうでもありました。

また、一般の来館者先着300名様には、

「300万人記念缶バッジ」を贈呈いたしました。さらに、スペシャル企画として、抽選で40名様にスピノサウルスの歯化石やサメの歯化石、缶バッジ等をプレゼントいたしました。

このようなイベントを実施することができたのは、これまでお引き立て下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。今後も、多くの皆様に御満足いただけるよう展示やイベントなどに工夫を凝らしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



(やまだ かずひこ・担当課長)

表紙の解説



石灰岩地のビワ

現在実施中の石灰岩地総合調査 (p.3 参照) の中で、暖温帯に位置する石灰岩地 (越生町) から、県内初記録となるビワの群落が確認されました。

ビワ *Eriobotrya japonica* は中国西南部原産とされるバラ科の常緑の果樹であり、暖かい地域を中心に各地で栽培されています。一方、大分県、山口県、福井県など西日本の石灰岩地には、実の小さい野生状のビワが生育することが知られており、これがもともと日本にあったものなのか、あるいは栽培品が逃げ出したものなのか、研究者の間でも議論がありました。最近の研究では、葉のDNAを使った比較の結果、石灰岩地のビワは栽培品や中国のビワとは遺伝的に明確に区別できることが分かっています。

今回発見されたビワも実が小さく、形態的には西日本の石灰岩地のビワと類似しています。石灰岩地でのビワ群落の発見は、県内はもとより、関東地方でも初めてのことです。ビワ以外に、埼玉県新産で国内分布の北限と考えられるリュウキュウマメガキ *Diospyros japonica* も見つかっており、重要な暖温帯性石灰岩地植物群落であるといえます。

撮影・解説 須田 大樹

催し物のお知らせ (10月~3月)

展 示

|      | タイトル                       | 期 間               | 内 容  |
|------|----------------------------|-------------------|--|
| 特別展示 | 現代有用植物展<br>~くらしと植物のステキな関係~ | 9月24日(土)~1月15日(日) | 昔から様々な形で利用された植物が、現代のくらしの中でどのような形で利用されているかを紹介。  |
| 企画展示 | 骨と皮<br>~からだを支えるいろんなひみつ~    | 2月4日(土)~6月中旬      | 生きものの体を支える骨と皮。生きものによってどんな形があり、どんな役割をもっているかを紹介。 |
| 季節展示 | 本多静六生誕150年                 | 9月13日(火)~1月15日(日) | 生誕150年を記念し、業績やゆかりの地を紹介。                        |
|      | 空飛ぶ夜の動物                    | 1月31日(火)~6月中旬     | ムササビなど、夜に空を飛ぶ動物を写真で紹介。                         |

開館時間 9:00~16:30 (休日を除く月曜休館)

イベント

|          | タイトル                   | 日 時                      | 場 所               | 参加費              | 対象・定員など       |
|----------|------------------------|--------------------------|-------------------|------------------|---------------|
| 観察会      | 国天然記念物古秩父湾をめぐる         | 10月29日(土)<br>10:00~16:00 | 集合・解散<br>博物館      | 3,900円<br>(バス代込) | 小学生以上<br>30名  |
|          | 地学散歩 in 吉見百穴           | 11月5日(土)<br>10:00~15:00  | 吉見百穴<br>(吉見町)     | 300円<br>+入園料     | 小学生以上<br>30名  |
|          | 和紙漉き体験と里山の自然観察         | 11月26日(土)<br>10:00~15:00 | 埼玉伝統工芸会館<br>(小川町) | 1,280円<br>(紙漉代込) | 小学生以上<br>30名  |
|          | 空飛ぶ座布団 ムササビを見よう        | 12月24日(土)<br>16:00~18:30 | 博物館               | 300円             | 小学生以上<br>30名  |
| 自然史講座    | 葉脈標本をつくってみよう           | 12月17日(土)<br>10:00~12:00 | 博物館<br>科学教室       | 500円             | 小学生以上<br>30名  |
|          | 動物のフンストラップをつくらう        | 1月14日(土)<br>10:00~12:00  | 博物館<br>科学教室       | 500円             | 小学生以上<br>30名  |
|          | 鉱物図鑑づくり                | 2月25日(土)<br>10:00~15:00  | 博物館<br>科学教室       | 500円             | 小学生以上<br>30名  |
|          | 化石のレプリカづくり             | 3月4日(土)<br>10:00~15:00   | 博物館<br>科学教室       | 500円             | 小学生以上<br>30名  |
| アドバンスド講座 | 古脊椎動物学入門               | 2月18日(土)<br>10:00~15:00  | 博物館<br>科学教室       | 300円             | 高校生以上<br>16名  |
| その他のイベント | 県民の日記念イベント             | 11月14日(月)<br>10:00~16:00 | 博物館<br>科学教室等      | 無料               | どなたでも<br>定員なし |
|          | 学芸員研究発表会<br>自然の博物館セミナー | 12月10日(土)<br>10:30~15:30 | 飯能市市民活動<br>センター   | 無料               | どなたでも<br>100名 |

※ 観察会、自然史講座、アドバンスド講座は事前に申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉県立自然の博物館ニュースレター 瀬 第27号 平成28年9月23日 発行

編集発行 埼玉県立自然の博物館 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1

TEL 0494-66-0404 (総務担当) 0407 (学芸担当) FAX 0494-69-1002

URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/> E-mail [t660404@pref.saitama.lg.jp](mailto:t660404@pref.saitama.lg.jp)

